

松本の伝統野菜を使った

「信州の長寿ごはん」を開催しました

銀座NAGANO発!



昨年11月に、東京銀座にある長野県のアンテナショップ「銀座NAGANO」で、料理研究家の横山タカ子先生とともに、先生の開発したレシピによる松本の伝統野菜を使った調理実演、試食イベントを長野県との共催で行いました。

事前申込制の試食会は満席の盛況で、首都圏から参加した約50人が、「松本一本ねぎ」のすき焼き風、「稲核菜」と白菜の漬物、「保平蕪」のサラダ、「ガニ豆」を使った甘酒デザート等、趣向を凝らした献立に舌鼓を打ちました。



▲試食会の様子

当日は、市職員のほか、稲核生産者組合、乗鞍グリーンツーリズム推進協議

会、安曇・奈川地域おこし協力隊の皆さんにもご協力いただき、各地区の伝統野菜や特産農産物、加工品のPR、即売も実施しました。



▲安曇・奈川地域おこし協力隊(左)と乗鞍グリーンツーリズム推進協議会(右)によるPR

今回使用した伝統野菜は、生産量が少なく、首都圏では全く流通していません。地元でもなかなか手に入らないものばかりです。今後は、こうした松本の伝統野菜を継承する仕組みづくりを支援するとともに、多くの皆さんに知ってもらい、松本を訪れてこそ味わえる「松本の魅力」の1つとなるよう育んでいきます。

●問い合わせ 農政課 (☎34-3221 ☎36-6217)、西部農林課 (☎78-3003 ☎78-3942)

環境コラム

ごみを減らそう

河川や水路に

ゴミを捨てないで

ゴミは、河川や水路に捨てないで、ルールを守って出してください。

○町の景観や環境を損ないます

河川は水の流れによって潤いのある生活環境を創出する環境機能があります。

しかし、河川や水路にごみが浮いている状態は、町の景観や環境を損なってしまうます。ゴミによって水の流れが悪くなると、水質の悪化や悪臭の原因となります。



○水害の原因になります

ゴミが水路に溜まったり、地下にある水路の中で詰まった場合は、水路から水があふれ、水害の原因となることがあります。

○農作物へ被害を及ぼします

水路に農薬や油などを流すと、下流の農作物に被害を及ぼします。

松本市内を流れる河川の清らかな流れを守るため、市内の18の河川に、河川愛護団体が組織され、河川パトロール、清掃、啓発看板の設置等の活動を行っています。



問い合わせ 環境業務課
(☎47-1096 ☎40-1335)

賢い消費者になるために



「民事訴訟通告書」というハガキ

突然ハガキで「あなたの未納・不払いにより財産の差し押え執行を要求する」という「民事訴訟通告書」が届いたとの相談が多く寄せられています。

他にも、「総合消費料金未納分」を請求する目隠しのシール付きのハガキや、携帯電話やスマートフォンに「コンテンツ利用料が未納」という簡易メールが届いたとの相談があります。

いずれの場合も、不特定多数の方に送っている詐欺的な架空請求ですので、無視しましょう。ハガキや簡易メールに記載の電話番号には、絶対に電話をしないでください。

困ったなどと思ったら・・・

松本市消費生活センター
(☎36-8832) または188へ



まつもと市民生きいき活動

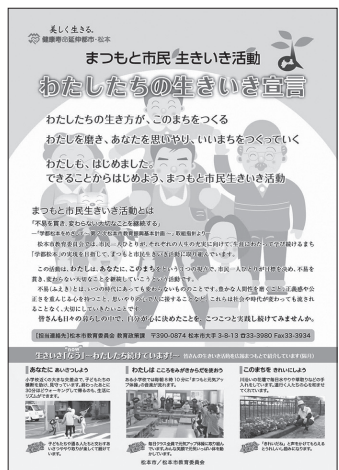
松本市教育委員会では、市民一人一人が人生の充実に向けて、生涯にわたって学び続けるまち「学都松本」の実現に向け、「まつもと市民生きいき活動」に取り組んでいます。この活動は、私たち一人ひとりが目標を決めて「不易」を貫き、変わらない大切なことを続けていこうという活動です。

「不易」とは、どんな時代でも変わらず大切にしていきたいことです。例えば、元気にあいさつをすること、体を動かして汗をかくこと、皆が使う場所をきれいにすることなど、取り組み方は100人いたら100通りの方法があります。

皆さんも、できることからコツコツと、始めてみませんか。

詳しくは、4月号広報と一緒に配られる上部のチラシもご覧ください。このコーナーでは、毎回市民の皆さんが実践している「まつもと市民生きいき活動」の取り組みを紹介しています。こんなことを楽しみながらやっているという取り組みなどありましたら、ぜひ情報をお寄せください。

●問い合わせ 教育政策課 (☎33-3980 ☎33-3934)



医療メモ #355

中学生のピロリ菌検査が始まります

1991年にアルプスで5300年前の氷河からミイラが発見され、アイスマンと名付けられました。この推定年齢47歳のアイスマンを調べたところ、胃の中からピロリ菌（ヘリコバクター・ピロリ）のDNAがみつかりました。この細菌は人間の胃にすみつき、胃炎、胃潰瘍、胃がんの原因になることが知られています。かつては全人類のおよそ半分が感染するほどに、深く、そして長く、人間と共存してきたのです。衛生環境が整った今では、母子感染（口移しなどが推測されている）が主な感染経路と考えられ、除菌することで胃がんを予防できます。

ピロリ菌感染率は過去の衛生状態の影響をうけるため、年代をさかのぼるほど増加します。具体的には、40代で約30パーセント、50代で約40パーセント、60代で約50パーセントです。一方、中学生の感染率は31パーセントといわれています。ピロリ菌はがん年齢である成人期の病

気に関連すると思われるのですが、感染のきっかけは小児期です。小児の感染は5歳までに多く、胃の慢性的な炎症を引き起こすとされ、貧血や腹痛の原因になるだけでなく成人期まで感染が持続します。このため、小児期にピロリ菌を発見し除菌治療することは、成人期の胃潰瘍や胃がんへの進行を食い止めるために重要なだけでなく、次世代への感染を阻止し、やがては人類との共存に終止符を打つことにつながります。

松本市は今年から、医師会や信州大学を始めとする市内医療機関と協力して、中学2年生の希望者を対象に「尿および血液を用いたピロリ菌検査」を実施し、除菌治療さらにはピロリ菌撲滅への道筋をつけることになりました。

多くの中学2年生に、この検査をぜひ受けていただくことを願っています。

医師会

URL: <http://www.matsur-med.or.jp>